

## 事業活動温暖化対策計画書 兼 実施状況等報告書

### 1 事業者等の概要

氏名又は名称	中部電力パワーグリッド株式会社					
代表者名	氏名	清水 隆一	役職名	代表取締役 社長執行役員		
主たる事務所の所在地	〒461-8680 愛知県名古屋市東区東新町1番地					
主たる事業の分類	大分類	F 電気・ガス・熱供給・水道業				
	中分類	33 電気業				
主たる事業の概要	一般送配電事業 等					
制度に該当する要件	<input checked="" type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第1号に該当する事業者				
	<input checked="" type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第2号に該当する事業者				
	<input checked="" type="checkbox"/>	条例第12条第1項第2号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	上記以外（任意提出）の事業者				
		基準年度実績	最終年度の目標	第一年度報告	第二年度報告	第三年度報告
原油換算エネルギー使用量	kl	2,597	2,545	2,587	2,652	
エネルギー起源二酸化炭素排出量	t-CO <sub>2</sub>	4,737	4,642	4,715	4,828	
その他ガス排出量合計	t-CO <sub>2</sub>	3,110	3,110	3,323	3,524	
自動車の台数	台	623	623	614	625	
自動車からの排気ガス合計	t-CO <sub>2</sub>	1,091	1,069	1,085	1,036	

### 2 基準年度、計画期間及び報告対象年度

基準年度	2020	年度
------	------	----

計画期間	2021	年度～	2022	年度
------	------	-----	------	----

報告対象年度	2022	年度
--------	------	----

### 3 計画書（報告書）の公表方法等

<input checked="" type="checkbox"/>	ホームページ	https://www.chuden.co.jp/csr/environment/kohyo/taisaku/
<input type="checkbox"/>	印刷物の閲覧	
<input type="checkbox"/>	その他	

様式1号  
(総括票)

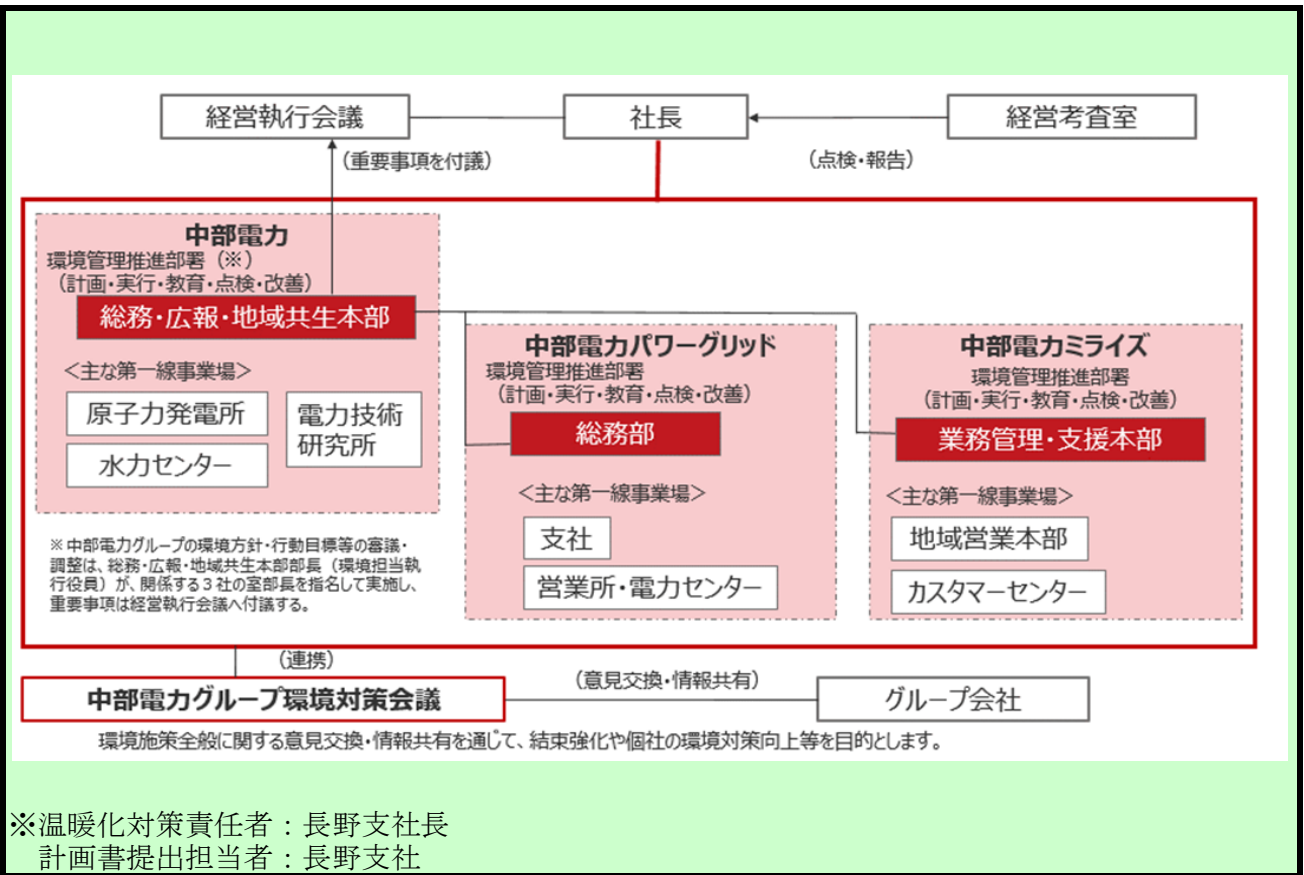
4 温室効果ガス排出抑制のための基本方針

**中部電力グループ環境基本方針**  
 中部電力グループCSR宣言に基づき、環境保全に関する基本方針を以下のとおり定める。  
 中部電力グループは、地球環境に配慮した良質なエネルギーを安全・安価で安定的にお届けすると同時に、「コミュニティサポートインフラ」の創造による「新しいコミュニティの形」を提供し、「一歩先を行く総合エネルギー企業グループ」として、持続的な成長を目指していきます。  
 この実現に向けて、環境経営を的確に実践するとともに、社員一人ひとりが自ら律して行動し、あらゆる事業分野における脱炭素社会・自然共生社会・循環型社会を目指した取り組みを通じて、持続可能な社会の発展に貢献します。

- 脱炭素社会の実現に貢献します～「ゼロエミチャレンジ2050」の達成に向けて～
  - 安全性の向上と地域の皆さまの信頼を最優先に、原子力発電の活用に向けた取り組みを進めます
  - 水力、太陽光、陸上風力、バイオマスに加え、洋上風力や地熱等の新たな取り組みも含め、再生可能エネルギー事業を積極的に展開します
  - 再生可能エネルギー電源や蓄電池の有効活用を可能とする電力品質の確保に向けた取り組みを推進します
  - エネルギーの最適利用を可能とするデジタル化を通じて、合理的な設備の形成・運用に努めるとともに、お客さま起点のコミュニティサポートインフラを創造し、社会のニーズにお応えすることで、お客さまや社会と共に電化・脱炭素化に貢献します
- 自然との共生に努めます
  - 豊かな自然環境を守るために多様な生物の生態系や水資源の持続可能性に配慮し、事業活動を行います
- 循環型社会の実現をめざします
  - 資源の消費抑制を図るとともに、廃棄物の発生抑制や資源の再使用・リサイクルにより処分量の最小化に努めます
- 環境意識の向上に努めます
  - 環境とエネルギーに関して、地域社会の皆さまとのコミュニケーションを深めます
  - 環境に配慮した行動が自発的にできる人材を育成し、社会に貢献します

中部電力グループは、環境への取り組みについて、継続的な改善を進めるとともに、適時適切に情報を開示します。

5の1 温室効果ガス排出抑制のための組織体制



5の2 温室効果ガス排出抑制のための会議体等の名称及び開催頻度

- 中部電力グループ環境対策会議 年1回程度開催

様式1号  
(総括票)

6の1 エネルギー起源二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	4,737	t-CO <sub>2</sub>	建物延床面積	55.90	単位	千m <sup>2</sup>
2020年度	調整後排出量	4,737	t-CO <sub>2</sub>	基準原単位	84.74	t-CO <sub>2</sub> /	千m <sup>2</sup>
目標年度	目標排出量	4,642	t-CO <sub>2</sub>	目標原単位	83.05	t-CO <sub>2</sub> /	千m <sup>2</sup>
2022年度	目標削減率	2.00	%	目標削減率	2.00	%	
目標設定に関する説明	エネルギーの合理化に関する法律(省エネ法)に基づき、年平均1%のエネルギー使用量の低減を図り、2年で2%低減することを目標とする。						
第一年度	排出量	4,715	t-CO <sub>2</sub>	建物延床面積	55.90	単位	千m <sup>2</sup>
	削減率	0.46	%	原単位	84.35	t-CO <sub>2</sub> /	千m <sup>2</sup>
2021年度	調整後排出量	4,715	t-CO <sub>2</sub>	原単位削減率	0.46	%	
	削減率	0.46	%				
排出量等の増減理由	新型コロナ対策への対応等により削減目標には到達しなかったが、引き続き、省エネの取り組みや建物設備改修に伴う省エネ対策により削減に努めていく。						
第二年度	排出量	4,828	t-CO <sub>2</sub>	建物延床面積	55.87	単位	千m <sup>2</sup>
	削減率	-1.93	%	原単位	86.41	t-CO <sub>2</sub> /	千m <sup>2</sup>
2022年度	調整後排出量	4,828	t-CO <sub>2</sub>	原単位削減率	-1.98	%	
	削減率	-1.93	%				
排出量等の増減理由	新型コロナ対策(窓を開放してのエアコン使用)による増。						
第三年度	排出量		t-CO <sub>2</sub>	建物延床面積		単位	
	削減率		t-CO <sub>2</sub>	原単位		t-CO <sub>2</sub> /	
—年度	調整後排出量		t-CO <sub>2</sub>	原単位削減率		%	
	削減率		%				
目標の達成状況及び排出量の増減理由							

様式1号  
(総括票)

6の2 エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	3,110	t-CO <sub>2</sub>	保有量	2,984.40	単位	千t-CO <sub>2</sub>
2020年度	調整後排出量	3,110	t-CO <sub>2</sub>	基準原単位	1.04	t-CO <sub>2</sub> /千t-CO	
目標年度	目標排出量	3,110	t-CO <sub>2</sub>	目標原単位	1.04	t-CO <sub>2</sub> /千t-CO	
2022年度	目標削減率	0.00	%	目標削減率	0.00	%	
目標設定に関する説明	<p>対象となるガスは「SF6」で、ガス遮断器やガス絶縁開閉装置等に使用されており、代替できる絶縁性能を有したガスはなく、使用量の削減は事実上難しい。</p> <p>基準排出量のうち85%程度は、自然漏洩（保有量の0.1%、省令値）であり、残る15%程度についてもトラブルを除き「機器点検時の排出割合を3%以下、機器廃棄時の排出割合を1%以下に抑制する」という高い目標を掲げ取組み、基準年度においても達成（それぞれ0.04%、0.2%）している。</p> <p>なお、目標削減率0%は未設定の意（0%は自動表示）であり、年度間の点検・工事量等の差はあるものの、排出量を現状レベルで維持するよう努力していく。</p>						
第一年度	排出量	3,323	t-CO <sub>2</sub>	保有量	3,009.87	単位	千t-CO <sub>2</sub>
	削減率	-6.85	%	原単位	1.10	t-CO <sub>2</sub> /千t-CO	
2021年度	調整後排出量	3,323	t-CO <sub>2</sub>	原単位削減率	-5.77	%	
	削減率	-6.85	%				
排出量等の増減理由	<p>対象となる「SF6」はガス遮断器やガス絶縁開閉装置等に使用され、排出量は点検・工事量に影響される。使用量の削減は難しいが、排出量を現状レベルで維持するよう努力していく。</p>						
第二年度	排出量	3,524	t-CO <sub>2</sub>	保有量	3,006.19	単位	千t-CO <sub>2</sub>
	削減率	-13.32	%	原単位	1.17	t-CO <sub>2</sub> /千t-CO	
2022年度	調整後排出量	3,524	t-CO <sub>2</sub>	原単位削減率	-12.50	%	
	削減率	-13.32	%				
排出量等の増減理由	<p>対象となる「SF6」はガス遮断器やガス絶縁開閉装置等に使用され、排出量は点検・工事量に影響される。使用量の削減は難しいが、排出量を現状レベルで維持するよう努力していく。</p>						
第三年度	排出量		t-CO <sub>2</sub>	保有量		単位	
	削減率		%	原単位		t-CO <sub>2</sub> /	
—年度	調整後排出量		t-CO <sub>2</sub>	原単位削減率		%	
	削減率		%				
目標の達成状況及び排出量の増減理由							

様式1号  
(総括票)

6の3 自動車の使用に伴う二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	1091	t-CO <sub>2</sub>	台数	623.00	単位	台
2020年度				基準原単位	1.75	t-CO <sub>2</sub> /台	
目標年度	目標排出量	1069	t-CO <sub>2</sub>	目標原単位	1.72	t-CO <sub>2</sub> /台	
2022年度	目標削減率	2.01	%	目標削減率	2.00	%	
目標設定に関する説明	エネルギーの合理化に関する法律(省エネ法)に基づき、年平均1%のエネルギー使用量の低減を図り、2年で2%低減することを目標とする。						
第一年度	排出量	1085	t-CO <sub>2</sub>	台数	614.00	単位	台
				原単位	1.77	t-CO <sub>2</sub> /台	
2021年度	削減率	0.54	%	原単位削減率	-1.15	%	
排出量等の増減理由	低稼働車両の除却により台数と排出量が減少。						
第二年度	排出量	1036	t-CO <sub>2</sub>	台数	625.00	単位	台
				原単位	1.66	t-CO <sub>2</sub> /台	
2022年度	削減率	5.04	%	原単位削減率	5.14	%	
排出量等の増減理由	テレワークの活用により稼働率および排出量が減少。						
第三年度	排出量		t-CO <sub>2</sub>	台数		単位	
				原単位		t-CO <sub>2</sub> /台	
—年度	削減率		%	原単位削減率		%	
目標の達成状況及び排出量の増減理由							

7 重点対策の実施状況

段階	番号	対策名称	基準年度	実施予定	第一年度	第二年度	第三年度	備考
I～II	I-1	燃料使用量等の定期的な把握	実施済	実施済	実施済	実施済		
	I-2	エコドライブの励行	実施済	実施済	実施済	実施済		
III	III-1	次世代自動車の導入計画	実施済	実施済	実施済	実施済		2030年度100%電動化(特殊車両を除く)
IV	IV-1	次世代自動車の導入	一部実施	第二年度	一部実施	一部実施		2030年度100%電動化(特殊車両を除く)

様式1号  
(総括票)

8 排出抑制目標達成のための具体的な措置

番号	区分	区分 番号	対策内容	計画		状況	
				実施予定 年度	削減見込量 (t-CO <sub>2</sub> )	実施 年度	推計削減量 (t-CO <sub>2</sub> )
1	エネ起	330299	空気調和設備、換気設備に係る その他の削減対策	2021～ 2022	155	2021～ 2022	147
2	エネ起	380752	LEDの導入	2021～ 2022	26	2021～ 2022	22
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							

9 自然エネルギー源利用設備等の導入計画及び状況

機器の種類	単位	基準年度	導入計画	第一年度	第二年度	第三年度
太陽光（営業所等）	kW	80	0	20	20	

様式1号  
(総括票)

10 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素の排出実績 (所、t-CO<sub>2</sub>)

工場等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量
3,000k1以上								
1,500k1以上 3,000k1未満								
1,500k1未満	16	4,737	16	4,715	16	4,828		
合計	16	4,737	16	4,715	16	4,828		

11 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出実績 (t-CO<sub>2</sub>)

ガスの種類	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
CH <sub>4</sub>				
N <sub>2</sub> O				
HFC				
PFC				
SF <sub>6</sub>	3,110	3,323	3,524	
NF <sub>3</sub>				
合計	3,110	3,323	3,524	0

12 次世代車使用台数等の導入状況 (台)

自動車種別	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
プラグイン・ハイブリッド自動車	0	2	2	
電気自動車	4	2	2	
燃料電池自動車	0	0	0	
クリーンディーゼル自動車	0	0	0	
その他 (ハイブリッド等)	2	12	12	
合計	6	16	16	0
自動車総数	623	614	625	
次世代車導入割合	1	2.6	2.6	

様式1号  
(総括票)

1.3 交通対策状況

区分	実施内容
公共交通機関の利用促進	なし
自転車の利用促進	なし
来客者の交通対策	なし
物流の合理化	なし

1.4 環境配慮活動状況

環境配慮活動	活動内容の詳細		
	実施内容		実施年度
<input checked="" type="checkbox"/> SDGs	長野県SDGs登録制度へ登録している		2020
<input checked="" type="checkbox"/> 環境マネジメントシステム	環境マネジメントシステムを導入している		1997～
	名称	ISO14001(2004)に基づいた自己宣言型の環境管理活動を展開	
<input checked="" type="checkbox"/> TCFD提言	気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 支持を表明している		2019
<input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンド	グリーンボンドを発行している		2021
<input checked="" type="checkbox"/> ESG投資	ESG対話プラットフォームに登録している		2018
<input type="checkbox"/> SBT	SBT を策定済、またはコミットしている		
<input type="checkbox"/> RE100	<input type="checkbox"/>	RE100にコミットしている	
	<input type="checkbox"/>	再エネ100宣言RE Action へ参加している	
<input type="checkbox"/> その他			

1.5 自由記載欄